



注) 荒茶は茶用篩3号で大型の残さの茶葉を分離し、この篩下を#5号で篩分け後、篩上は#6号で切断し篩上と合わせ、供試した。なお、篩分け、切断とも手作業による。達観評価は、当試験場職員4名の合議による。

— 員 姓 — 年 月 日 姓 名 性 別

注) 篩分けは、荒茶の茶用篩12号下を用いた。なお、篩分け、切断とも手作業による。達観評価は、当試験場職員4名の合議による。

(茶業試験場 杉本篤史 0889-32-1024)